

きらら としょかん 

新屋図書館だより

発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 270

R7. 2・3月号

新屋ガラス工房とのコラボ展示がリニューアル！！

新屋ガラス工房とのコラボ展示が1月にリニューアルしました。

今回のテーマは「日本酒のための酒器」。

併せて関連資料の展示もしていますので是非ご覧ください。

場所：倉庫棟・酒資料展示コーナー

太平山観光開発株式会社様からの寄贈図書 後期分始まりました！

「クアドーム ザ・ブーン」や「太平山スキー場 オーパス」を
管理・運営する太平山観光開発株式会社様から
寄贈された児童書コーナーがリニューアル！

ワクワクする絵本や読み物をたくさんご用意しています♪

場所：児童新刊コーナー横

2月・3月のおはなし会

2月1日（土） 14：00～14：30

動物いっぱい

～絵本・手遊び～

（おはなしのへや・幼児～小学生）

2月18日（火） 10：30～10：50

動物いっぱい

～わらべうた・ふれあい遊び～

（おはなしのへや・赤ちゃん～）

3月1日（土） 14：00～14：30

大きくなるっていうことは

～絵本・紙芝居～

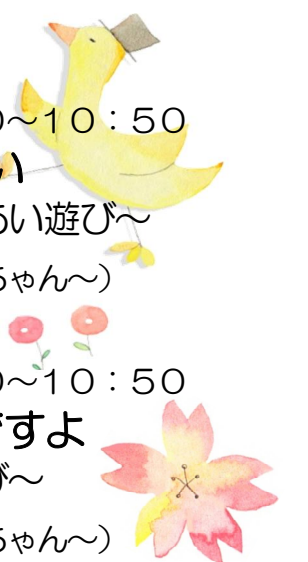
（おはなしのへや・幼児～小学生）

3月11日（火） 10：30～10：50

もうすぐ、春ですよ

～絵本・手遊び～

（おはなしのへや・赤ちゃん～）



新刊案内

地名の魔力 惹きつけ、惑わす、不思議な力

今尾 恵介／著

PHP研究所 請求記号 291.01 (日本の地理)

地名には、様々な歴史や文化の背景が隠されています。本書は、秋田県にかほ市のような市町村合併に伴い平仮名になったものや雪車町（そりまち）のように道具の名称をあてたものなど、地名の背景を多面的に解説。難読地名や読み方の変遷も紹介され、謎解き感覚で楽しめます。



ゆるい場をつくる人々 サードプレイスを生み出す17のストーリー

石山 恒貴／編著

学芸出版社 請求記号 361.7 (地域社会)

家庭でも職場でもない、とびきり居心地の良いサードプレイス。そこは、人に強制されず、みんながやりたいことを持ち寄って楽しむ「ゆるい場」。シェア図書館やまちの学び舎、コミュニティ菜園など、17か所のサードプレイスと、そこに集まる人々の思いを紹介します。



味噌大全 増補改訂版

渡邊 敦光／監修

東京堂出版 請求記号 588.6 (味噌)

日本の伝統的な発酵食品の1つであり、現代の食生活に欠かすことができない味噌。その歴史から種類、健康効果や世界的人気の背景などを紹介しています。全国各地の味噌を使った料理の特徴や、意外な豆知識が詰まった「味噌コラム」も充実している読み応えたっぷりの1冊です。



ぼくはなんのほん？

カロリーナ・ラベイ／著 はせがわ けい／訳

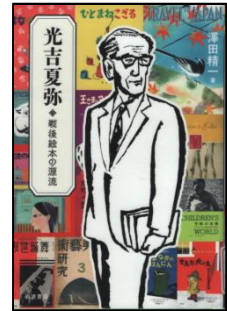
光文社 請求記号 Eラ (絵本)

ダスティーは誰にも読んでもらえない本。ほこりだらけで自分が何の本かもわかりません。誰もいない夜の図書館で、ほかの本たちは自分が読んでもらった時のことを楽しく話しています。そのうち寂しそうにしているダスティーを読んでもらおうと、仲間たちがある作戦をたてます。



図書館員のおすすめ本

書名	光吉夏弥 戦後絵本の源流
著者名	澤田 精一／著
出版社	岩波書店
所蔵	土崎
	請求記号 289.1 (個人伝記)



図書館の児童文学の棚で、よく目にする名前があります。それは、「光吉夏弥^{みつよしなつや}」です。

「ひとまねこざる」や「ぼくはめいたんてい」など彼が訳した本は、明るくユーモアにあふれています。東京子ども図書館の創設者・石井桃子と共に、1953年に「岩波子どもの本」を刊行するなど、戦後の日本に多くの児童書をもたらしました。さらに、舞踏や写真の評論も手

がけ舞踏・写真・子どもの本、3つの世界の先駆者でもあります。これまで、謎多き人物とされていましたが、残されていた資料や、作者との交流から初の評伝が出版されました。戦前の資料で光吉は「優れた絵本が何度も印刷されて、子どもたちの手にわたることがいかに重要であるか」と指摘しています。これは80年以上経った今でも、子どもの本に通じるものではないでしょうか。

書名	魔性の子
著者名	小野 不由美／著
出版社	新潮社
所蔵	新屋
	請求記号 91オ (小説)



ホラーやSFなどの本に興味があった中学生時代に担任の先生に薦められ、購入を決めた1冊です。

教育実習生の広瀬が担当するクラスには、かつて神隠しに遭った高里要という、異質な雰囲気をもった生徒がいました。彼の周りでは「崇り」が起こると噂され、不審な事故による怪我や失踪、さらには死亡事故まで起こってし

まいます。原因は本当に「崇り」なのでしょうか？

読み手の理解をよそに進む展開に戸惑っているうちに読み終わってしまい、何度も読み返した作品です。

見えないものの裏に何が隠れているのかを想像しながら、独特な世界観に浸ってみてはどうでしょうか。

記事になったお酒の話あれこれ…日本の酒造り無形文化遺産へ…

2024年12月5日、日本の「伝統的酒造り」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されました。日本のこうじ菌を使った酒造りの手法である「伝統的酒造り」は、日本酒や焼酎、泡盛、みりんなどを生み出すとともに、日本各地の気候や風土に応じて発展し、500年以上にわたって受け継がれてきた技術です。長い年月をかけて磨き上げられた技術が文化遺産に登録されたことは、全国の酒蔵などの関係者から「世界に評価された」「名誉だ」と喜ぶ声が上がりました。国内外で日本酒のブランド価値や認知度を高めるきっかけになると今後への期待も膨らんでいます。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】
日本経済新聞
2024年11月6日
日本経済新聞
2024年12月6日

今、あなたへ…ぽかぽか…

寒い日が続いて憂うつになりがちなのこの時期。図書館の本で心身ともに温まりませんか？

温かい飲み物がほしくなったときは『世界のホットドリンクレシピ』（誠文堂新光社）。世界の定番ドリンクのアレンジ法や効果を紹介しています。風邪予防の参考にもなりますよ。

『阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし』（阿佐ヶ谷姉妹／著、幻冬舎）は、芸人・阿佐ヶ谷姉妹のゆるーい日常を綴ったエッセイ。つい笑ってしまう数々のほっこりエピソードを通して、何気ない日々の幸せに気づかせてくれます。

『生きもの毛事典』（保谷 彰彦／文、文一総合出版）には、生き物の体を守る毛の役割をリアルなイラストで紹介。体温調節以外の機能も備わったふさふさで、もこもこな世界の秘密に迫ります！



図書館員のひとりごと

今冬は近年希な寒波が押し寄せ、県内各所で除雪作業に追われる様子がテレビニュースとなって流れています。当館の駐車場をはじめとした敷地の除雪に挑んだものの、重い雪と厳しい寒風に晒され幾度心が折れそうになったことでしょう…。

それでも、除雪を終え見上げた冬の青空の清々しさと整然と除雪された敷地に立ったときの達成感を得ることができるのは、雪国に暮らすものの特権だと自分に言い聞かせ、今日も雪に挑みます。

(Y)

「好きな食べ物は？」と聞かれて、即答するのは難しいなーと思うのは私だけでしょうか？

食べることが大好きなので、次々思い浮かびはするのですが、「これ！」というものは無いのかも。食感が楽しめるもの、堅いナッツ類や、こりこりした牛タン、カリッとしたクレームブリュレ、大好き。好きな色が黄色だからかバナナや焼き芋、コーンスープも大好き。薄味の健康的な食事も、ジャンクなフードも美味しいと感じます。恵方巻きも好きだなあ…。

質問の答えはみつかりませんが、いつでも美味しく食べられるよう、健康管理と体型維持、頑張ります。

(I)